

Contents

1. 男子インカレのご案内・主将抱負
2. 女子インカレのご案内・女子主将抱負
3. 夏合宿を振り返って
4. ご支援のお願い（再掲）
5. 第64回早慶定期戦結果
6. 国民体育大会結果（成年男子）
7. 国民体育大会結果（女子）
8. リレー寄稿 あの先輩はいま
9. 年会費納入のお願い 10. 競技会成績



国体女子49kg級の表彰台に立つ
鈴木梨羅選手と安嶋千晶選手

(写真：日本ウエイトリフティング協会 Facebook公式ページより転載)

男子インカレのご案内・主将抱負

今年度の男子インカレが以下のとおり開催されます。

ご来場いただける方は事前にガイドラインをご確認ください。ライブ配信での観戦・応援もお願いいたします。

◇新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン：<https://media.toriaez.jp/y3061/66857.pdf>

◆ライブ配信URL (UNIVAS LIVE)：https://www.univas.jp/live/univas_cup/

第68回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（I部）

期日：11月29日（火）～12月1日（木） 会場：サイデン化学アリーナ（埼玉県さいたま市）

日程	階級	選手名	補欠
11/29 (火)	14:40	61kg級 宮下一心 (社会科学部4年)	家吉理空 (社会科学部4年)
	16:15	67kg級 坂本拓夢 (スポーツ科学部4年) 西川和真 (スポーツ科学部3年)	奥野伊真 (スポーツ科学部1年)
11/30 (水)	10:30	73kg級 佐藤康太郎 (スポーツ科学部4年)	
	12:25	81kg級 駒阪勇気 (スポーツ科学部3年)	
	14:05	89kg級 小山秀斗 (スポーツ科学部2年)	吉野真太郎 (スポーツ科学部1年)
	15:45	96kg級 今瀬竜雅 (スポーツ科学部2年)	須藤之博 (スポーツ科学部1年)
12/1 (木)	17:20	102kg級 菊地力哉 (スポーツ科学部1年)	田中稜真 (スポーツ科学部2年)
	10:30	109kg級 柏木良太 (スポーツ科学部4年)	羽田創 (スポーツ科学部2年)
	12:05	+109kg級 西堅也 (スポーツ科学部4年)	木口永遠 (スポーツ科学部3年)

平素よりご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今年度も無事にインカレが開催され、参加できることをたいへん嬉しく思います。コロナ禍の出口が何度も近づき、そしてその度に遠のくことで、部活動のあり方を決めることが難しい一年でした。

しかし、皆さまのご支援のもと練習を続けることができ、限られた時間と環境のなかでも日々部員が個々の努力を積み重ねたことで、インカレを最後まで戦い抜けるチームに成長し、ここまで来ることができたと感じています。

また、昨年は叶わなかった夏合宿や対面での早慶定期戦開催など、部として大きく前進するための機会も今年は実現することができました。

主将としてこの一年活動させていただいた今、早稲田大学ウエイトリフティング部に関わる方々のうち誰一人欠けてもこのチームを作ることはできなかったと強く感じています。

皆さまへの感謝を胸に、優勝に向けて全身全霊でインカレに挑みます。

男子主将 宮下一心 (社会科学部4年)

女子インカレのご案内・女子主将抱負

今年度の女子インカレが以下のとおり開催されます。

ご来場いただける方は事前にガイドラインをご確認ください。ライブ配信での観戦・応援もお願いいたします。

◇新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン：<https://media.toriaez.jp/y3061/56054.pdf>

◆ライブ配信URL (UNIVAS LIVE)：https://www.univas.jp/live/univas_cup/

第68回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（女子）

期日：12月16日（金）～17日（土） 会場：はびきのコロセラム（大阪府羽曳野市）

日程	階級	選手名	補欠
12/16 （金）	12:00	45kg級 鈴木莉乃（スポーツ科学部4年）	佐藤日路（スポーツ科学部3年）
	13:55	55kg級 原沙織（スポーツ科学部4年） 堤茉央（スポーツ科学部1年）	吉田いぶき（スポーツ科学部3年）
	15:35	59kg級 原志歩（スポーツ科学部2年）	徳田七海（スポーツ科学部1年）
	17:00	64kg級 加茂千弦（スポーツ科学部3年）	橋本夏実（スポーツ科学部2年）
12/17 （土）	10:00	76kg級 伊藤紗彩（スポーツ科学部3年）	久保美波（社会科学部4年）
	11:35	81kg級 田中美奈（スポーツ科学部3年）	吉武温子（スポーツ科学部4年）
		+87kg級 吉田琴乃（スポーツ科学部3年）	

平素は多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年のインカレから早くも一年が経とうとしています。今年度もう一度優勝カップを持ち帰ることを目標に掲げ練習を重ねてまいりました。

この一年を振り返ると、私たち4年生にとっても後輩たちにとっても、「変化」の一年であったと感じています。新型コロナウイルスの影響により二年間実施できなかった夏合宿や早慶定期戦などの行事を、今年は皆さまのご尽力もあり開催することができました。

また女子は、種目ごと自己ベスト伸長の全員分合計で「100kg」を目指す、という記録でも「変化」を求める取り組みを行ってきました。時には上手いかず悩んだこともありましたが、間違いなく大きな「変化」をもたらした一年だったと実感しています。そんな苦楽を乗り越えてきた部員とともに、インカレ連覇を達成します。

皆さまのご期待に応えられるよう部員一同最後まで全力で挑んでまいりますので、これまでと変わらぬ応援をお願いいたします。

女子主将 原沙織（スポーツ科学部4年）

夏合宿を振り返って



9月1日～4日、宮崎県総合運動公園にて夏合宿を行いました。

新型コロナウイルス感染症拡大のため2020-2021年度の夏合宿は見送り。3年ぶりによく行えることになり、私たち4年生にとっては1年生のとき以来2回目、3年生以下の部員は初めての夏合宿となりました。

夏合宿は部にとって、また主務である私自身にとっても大きな意味を持ちます。合宿を行うか否か、直前まで部員と指導スタッフとの間で議論を交わし、結論として敢行することになりました。多くの制限や大学の規定を遵守しながら進めることのもどかしさもありましたが、何とか無事に合宿を終えることができました。コロナ禍という稀有な状況のなかで部員が一つになって作り上げた合宿だからこそ、その意義を深く体感することができました。

OB・OGの皆さまから多大なる援助を賜りました。また、合宿の催行にご協力いただいた皆さまに、部員一同心より感謝申し上げます。

主務 久保美波（社会科学部4年）

ご支援のお願い（再掲）

総会資料やメール配信でご案内のとおり、ポストコロナでの部活動継続に向けて今年度も部財政援助の取り組みを企画いたしました。取り組みの趣旨をご理解の上、OB・OGの皆さまに広くご協力を賜れますと幸いです。

【女子大阪遠征・宮崎合宿に向けた助成金の募金について】

今年度の女子インカレは、12月16日～17日に大阪府羽曳野市で開催される予定です。女子部員18名を主体とした遠征になりますが、往復交通費と宿泊費だけでも概算で120万円もの費用がかかる見込みです。女子は、2005-2006年度以来の「連覇」を目指しての対抗戦となります。部員が安心してトレーニングに励み、目標とする成果を挙げられるよう、部の経済的負担軽減に向けてOB・OGの皆さまから広く助成金を募り援助に充てることとします。

また、9月には3年ぶりに宮崎で夏合宿を行いました。シーズン後半の各大会に向けてチームとして弾みをつける重要なイベントですので、本合宿も助成金の目的に追加し、募金目標額を650,000円とします。なお、募金はOB・OGが対象です。部員保護者の皆さまはご心配なさらないください。

【募金目標額】

650,000円

宮崎：一人10,000円×42名分（部員37名＋指導スタッフ5名）

大阪：一人10,000円×23名分（女子18名＋指導スタッフ5名）

※11月6日までにOB・OG19名から計**493,000円**のご寄付を賜りました。（達成率75.8%）

【募集金額】

一口5,000円（5,000円以上1,000円単位で任意）

【募集期間】

2022年12月末まで（予定）

【申込方法】

当会口座に直接お振り込みください。

振込先： 金融機関／支店 = **みずほ銀行 新宿新都心支店**
科目／口座番号 = **普通 8220922**
受取人名 = **トウモンウエイトリフティングクラブ**

【部奨学金の安定的運用に向けた支援金の募金について】

コロナ・ウクライナ情勢による日本経済への影響が懸念されており、わが部においても家計事情等で修学の継続が難しくなる部員が出てくるのが懸念されます。志を持って早稲田に進学・入部してきた後輩たちが誰一人として経済的理由により修学をあきらめることのないよう準備しておきたいと存じます。

【申込方法】

早稲田大学の寄付制度による「ウエイトリフティング部」指定寄付

※ 本制度による寄付は、寄付金控除の対象となります。

指定寄付は通年、以下のURLからお申込みいただけます。

<https://kifu-form.waseda.jp/waseda/exp/explanation.htm>

[操作手順]

1. 上記URLのページで『下記(上記)の条件に同意し「寄付を申し込む」』をクリック
2. STEP1申込入力で必要事項を入力、「寄付の種類」欄で「**体育各部または早稲田スポーツ全般**」を選択、続いて「**指定先**」欄で「**ウエイトリフティング部**」を選択
3. 決済情報入力後、『入力内容確認へ』をクリック、その後、STEP2確認画面～STEP3完了へと進む

第64回早慶定期戦結果



宮下一心選手（社会科学部4年）

コロナの影響で2020-2021年度はオンライン開催となっていた早慶ウエイトリフティング定期戦が、9月17日、日吉記念館において3年ぶりの対面形式で開催されました。

当日は早慶両校応援部も参加し、リーダー・チアリーダーズの強力な応援が加わり、それに呼応して両校選手も気迫に満ちた試技を展開し、かつてない盛り上がりを見せました。

競技は前半、スタート重量で上回る早稲田が優勢に展開。55kg級で家吉理空選手、61kg級で主将・宮下一心選手、67kg級で西川和真選手、73kg級で佐藤康太郎選手が各階級の大会記録を更新する活躍で盛り上げたほか、吉田いぶき選手と堤茉央選手の女子二人や他の選手も確実に得点を挙げ、78対42とリードして折り返します。



柏木良太選手（スポーツ科学部4年）

後半、慶應の各選手も奮闘を見せますが、早稲田は89kg級で小山秀斗選手、96kg級で今瀬竜雅選手がともに大会記録を更新。さらに+96kg級でも柏木良太選手がスナッチ140kg、菊地力哉選手がC&ジャーク177kgの大会新記録を挙げる活躍で会場を大いに沸かせたほか、各選手が確実に試技を成功させ加点。団体戦は早稲田156点、慶應義塾82点で早稲田が勝利し、62回目の優勝を果たすとともに連勝記録を57に伸ばしました。

閉会式に続き、両校の健闘を称え、また今後益々の発展を期して、応援部リーダー指揮による校歌斉唱とエールの交換を行い、終了となりました。

第64回早慶ウエイトリフティング定期戦

階級	55kg	61kg	67kg	73kg	81kg	89kg	96kg	+96kg	合計
早稲田	21	16	21	20	21	21	15	21	156
慶應	9	14	9	10	9	9	13	9	82



エールを送る早稲田大学応援部のリーダーとチアリーダーズ

国民体育大会結果（成年男子）

10月6日～10日、栃木県小山市で第77回国民体育大会が開催され、早稲田勢は部員・OB・OGあわせて25名が各都道府県の代表として出場しました。

初日に行われた成年男子67kg級では佐賀県代表として出場した生頼永人選手（H30卒）がスナッチ・C&ジャークともに他を寄せ付けない記録・試合運びで見事優勝を果たしました。

また、宮城県代表・佐藤康太郎選手（4年）もC&ジャークの大会記録を更新する活躍で3位の成績を収めました。



©JSPO(日本スポーツ協会)



©JSPO(日本スポーツ協会)

皆さま、お久しぶりです。H30卒・生頼永人です。2021年度から佐賀県スポーツ協会に所属しウエイトリフティング競技を再開することになりました。

3年ぶりの国民体育大会、自身としては4年ぶりの国体出場でした。自分は67kg級で出場し、結果はスナッチ、C&ジャークともに優勝することができました。

今大会、9年ぶりの両種目での優勝、復帰後67kg級で出場した大会で最終試技まできちんと試合を行うことができたなど、充実した試合となりました。

次は、創部以降初の全日本選手権優勝を目標に練習に打ち込んでまいります。今後とも応援のほど、よろしくお願いいたします。

生頼永人（H30卒/佐賀県スポーツ協会）

（写真出典：JSPO TV 国体チャンネル いちご一会とちぎ国体 第77回国体）

第77回 国民体育大会ウエイトリフティング競技会									
階級	選手名	所属	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	C&J	順位	記録	順位
M55	知念勇斗	H31年 高崎市役所	54.65	92	12位	123	7位	215	8位
M55	家吉理空	社学4	54.65	78	16位	100	15位	178	15位
M61	宮下一心	社学4	60.9	106	8位	134	7位	240	7位
M67	生頼永人	H30年 佐賀県スポーツ協会	66.9	131	1位	159 CR	1位	290	1位
M73	佐藤康太郎	スポ4	72.8	130	4位	178 CR	2位	308	3位
M81	安達貴弘	H25年 石炭東高校（教）	80.55	133	6位	168	5位	301	5位
M81	知念勇樹	R03年 早稲田大学大前	80.6	124	12位	169	4位	293	8位
M81	生頼啓暉	R04年 （株）国産自動車	76.8	122	14位	166	6位	288	11位
M89	駒坂勇氣	スポ3	81.75	132	6位	163	7位	295	7位
M109	柏木良太	スポ4	107.45	146	6位	178	9位	324	5位
M109	菊地力哉	スポ1	104.8	130	13位	179	8位	309	10位
M109	羽田創	スポ2	107.4	120	18位	160	15位	280	14位
M+109	木口永遠	スポ3	123.3	120	12位	140	13位	260	12位

【学部表記凡例】 スポ：スポーツ科学部 社学：社会科学部

【記録表記凡例】 J：ジュニア U：大学 C：大会 S：タイ記録 R：新記録

国民体育大会結果（女子）

4日目の10月9日に行われた女子49kg級では佐賀県代表・安嶋千晶選手（H31卒）と千葉県代表・鈴木梨羅選手（R03卒）の早稲田勢二人による熾烈な優勝争いが繰り広げられました。

試合は後半、スナッチ1位の鈴木選手を安嶋選手が追う展開となりましたが、鈴木選手がスナッチのアドバンテージを活かしてトータル1kg差で逃げ切り、全日本女子選手権との二冠を達成しました。

鈴木選手は、12月5日～16日、コロンビアで開催されるIWF世界選手権に日本代表として出場予定です。



いつも応援ありがとうございます。3年ぶりの開催となった国民体育大会で49kg級に出場し、優勝することができました。

前回まで上位の選手に力が及ばず悔しい経験が多かった分、優勝できたことをとても嬉しく思います。また、先輩である安嶋千晶選手と競い合ったことは、緊張感がありながらも楽しく、早稲田大学で共に練習していた頃を思い出しました。

心強い味方であった存在が今ではライバルとなりましたが、競技を始めた頃から尊敬し目標としていた選手と今後競い合っていくことを考えると、とてもわくわくします。いつも多くの刺激をいただいています。切磋琢磨しあい、早稲田大学を、ウエイトリフティング界を盛り上げていけたら嬉しい限りです。

今後も皆さまに良いお知らせをお届けできるよう、まずは12月に開催される世界選手権に向けて精進してまいります。今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

鈴木梨羅（コーチ・R03卒/ALSOK）

（写真：日本ウエイトリフティング協会 Facebook公式ページより転載）

第77回 国民体育大会ウエイトリフティング競技会

階級	選手名	所属	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	C&J	順位	記録	順位
W49	安嶋千晶	H31年卒 佐賀県スポーツ協会	49	80	2位	104	1位	184	2位
W49	鈴木梨羅	R03年卒 ALSOK	47.95	82	1位	103	2位	185	1位
W49	鈴木莉乃	スポ4	47.75	59	11位	77	11位	136	11位
W49	佐々木暁	スポ3	48.6	58	12位	77	12位	135	12位
W55	原沙織	スポ4	54.9	78	6位	101	4位	179	6位
W55	吉田いぶき	スポ3	53.65	75	9位	99	7位	174	8位
W55	堤茉央	スポ1	54.9	80	3位	99	6位	179	4位
W59	原志歩	スポ2	57.05	82	5位	104	5位	186	4位
W59	橋本夏実	スポ2	59	80	9位	103	7位	183	7位
W59	徳田七海	スポ1	55.65	70	15位	95	14位	165	14位
W71	田中美奈	スポ3	70.75	86	8位	109	6位	195	6位
W71	伊藤紗彩	スポ3	70.7	0	—	108	7位	0	—

【学部表記凡例】 スポ：スポーツ科学部 社学：社会科学部

【記録表記凡例】 J：ジュニア U：大学 C：大会 S：タイ記録 R：新記録

9月8日～11日、秋田県三種町で開催された全日本マスターズ選手権において、水谷吉朗先輩（昭和48年卒）が見事初優勝、金メダルを獲得されました。おめでとうございます。

マスターズ競技参加の経緯や試合を終えての感想など寄せていただきましたのでご紹介します。

オールド・リフター奮戦記

コロナ以前は毎年、いま勤務している日本語学校の大阪本社（難波の黒門市場近くにあるメリックという立派な学校法人ですが）で7月末に校内で開催される進学説明会に参加していました。朝の1時限目から始まるので、近くのホテルで前泊が通例でした。いつもその界隈の名店（酒も肴も旨い実にしびい居酒屋）に詳しい平成4年卒の濱屋OBに店を手配してもらい、近くにお住いのOB先輩方と楽しくミニOB会をやっていました。

2018年、山内英雄先輩はその日に和歌山で全日本マスターズの試合、店にいらっやっていた谷川吉史先輩も翌日試合とのことでした。さすがに恐縮して「明日試合なのに今日飲んで大丈夫なんですか？」と訊ねたところ、「マスターズはヘタに力むより飲んで気楽に出た方がいいんだよ」と仰って、とても楽しく飲まれていました。それで翌日、皆もいるということなので、仕事のあと大阪から和歌山へ夜の応援にかけつけました。すると、1つ下の鷲田とその学年が大挙してそろっていて、田原、野口が試合に出場、応援に今は亡き岡田文男、九州から梅本も来ていました。山内英雄先輩の旗振りでOB大宴会となり、榎先輩、牧野先輩、谷川先輩、志田会長、昭和52年卒の町田OB、世界マスターズの日本チェアマンをしている保井OB、なんと高橋ゴリ先輩も健在でした。試合に出場したOBも応援に来たOBもそれは楽しそうに、いきいきと飲んで、いろんな話に花を咲かせていました。前夜一緒に飲んだ谷川先輩もマスターズ自己新を出し嬉しそうでした。「こんな楽しい競技スポーツがあるのか」と正直すごく羨ましい気持ちになりました。これがきっかけで東京に帰ってから四十肩、五十肩で電車の吊り革も持てないほど上がらない腕・肩に、本気でリハビリを始めました。

翌2019年春の熱海ミニOB会で、山内英雄先輩から「お前もマスターズの試合に出る。M70-55kg級ならスナッチ50kg、ジャーク70kgで優勝できるよ」と軽い口調にあのスルドイ視線で言われ、思わず「はい！」と答えてしまいました。それ以来、約50年ぶりのリフティング復帰をするにはどうすればいいんだろ、何からどう始めればいいんだろ？と思案にくれました。がしかし、悩むことは全くと言っていいほどありませんでした。70歳ともなれば立派な高齢者で、できることがほとんど限られていたからです。ワイドグリップのバックプレスが7.5kg実技用バーベルから20kgシャフトで出来るようになり、やっとC&ジャークの真似ができるようになりました。5月になり、試合本番ではハイスナッチとハイクリーン&プッシュジャークにして、スクワット・スナッチとスプリット・ジャークはやらないことに決めました。6月の終わりごろにはハイクリーン50kgが自分の部屋で2回できるようになったので、何とか試合には出場できそうな気がしてきました。

2019年7月26日、宮崎県総合運動体育館で44年ぶりに試合に出ました。競技用のユニフォームもなく、61kg級で1学年下の野口清志OBから早稲田カラーのツリタイとTシャツを貸してもらい、セコンドまでやってもらいました。スナッチは35kg38kg40kg、3本成功して調子が良さそうだということで、山内英雄先輩からスクワット・スナッチの指導をして



全日本マスターズ選手権M70の表彰式にて

もらい、アップ場で43kgまで取りました。ジャークは1本成功50kgだけ。トータル90kgで6位という結果でした。しかも1回目はツリタイを肩まで着用の注意中に時間切れ失敗、3本目はプレスアウト。こうして初の全日本マスターズは終了しましたが、和歌山のときと同じように多くのOBが応援に来ていただきました。鷲田、野口、志田会長、宮崎大会ということで久留米の梅本、熊本から海崎、牧野先輩とご友人の神奈川・森正英さん、整体でよくお世話になった岡幸次郎さん、埼玉から野中OBらで美味しい宮崎地鶏で飲みました。そう、この年山内英雄先輩はカナダ・ケベックで開催された世界マスターズで優勝され、「記録はやや芳しくなく残念ですが、ただ表彰式で国歌が流れたのは感激でした」とのコメントをFacebookにアップされていました。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックで全日本マスターズ大会は2年連続で流れました。そして
(次ページへ続く)

ようやく今年2022年、第40回大会が秋田県三種町の琴丘総合体育館で開催されることになりました。時間がたっぷりあったので十分な準備と向上が望めそうですが、逆にあちこち関節痛、筋肉痛など身体中に不具合が増え、パワーが衰える速さに記録の伸びが追いついていかないという高齢者スポーツ独特の厳しさを身に沁みて味わっているところでした。

試合の前日9月7日、羽田空港でのことでした。荷物を預ける直前、ロビーのソファに座って何気なく野中OBからのLINEメッセージをチェックしました。何かと心配らしく、健康管理シート提出のこと、試技票の監督署名のこと、宮崎大会の教訓としてコール前にツリタイを両肩から外さないことなどでした。その諸注意の中でも「新しいユニフォームでいい色のメダルを云々」という一文に引っ掛かりました。この試合のために作った新しいユニフォームは普段の練習着とは違う特別な場所に置いてあって、忘れてきたことに気付きました。その瞬間汗が噴き出し、一気に引きました。冷静になってバッグをロッカーに入れ、カウンターで搭乗便の変更手続きをして家に取りに戻りました。予定よりかなり遅くなりましたが、無事に秋田市内のホテルにたどり着き、翌日の準備もそこそこに疲れ果てて寝てしまいました。

試合当日は天気も良く、秋田駅から奥羽本線で約1時間、鹿渡駅まで移動し、会場の三種町琴丘総合体育館に到着しました。検量も無事終わり、神奈川県とのチームと一緒に荷物を置かせてもらいました。M70-55kg級スナッチのスタート重量は、私が35kgで一番低く、他の選手は36kg, 40kg, 43kgでした。あまり離されないようにスナッチ3本目で43kgを選んで成功し、スナッチ1位の46kgと3kg差で後半に臨みました。ジャークのスタート重量は52kgで、スナッチ1位の選手はスタートを52kgから50kgに下げていました。「あれー？なんで？」と思いましたが、体重が最も重い私はスナッチ差の3kg+1kgにしなければと思い、2本目56kgをコールしました。肘を伸ばすことに注意して成功した後、周りを見ると情勢がだいぶ変わっていました。スナッチ1位だった選手は怪我のせいかジャーク52kgで終わり、スナッチ43kgで私と同記録の選手がジャーク2本目で55kgを成功させた後、57kgをコールし挑んでいました。この時も「あれー？なんで？」と思いましたが、なんで2本目も3本目も56kgにしないのか。なんで57kgにしたのか分かりませんでした。とにかく相手がこの試技に成功したら、私は+1kgの58kgで勝負しよう決めていました。結局は相手が57kgに失敗し、私の優勝が決まりました。後で知ったことですが、「同記録体重差」というかつてのルールは変更され、現在は体重に関係なく最高トータルを先に出した選手の勝ちだそうです。これで相手が57kgに挑んだ謎が解けました。

こうして私の2022年全日本マスターズは終わりました。気付けば、実に人生初の全日本と名の付く大会での優勝、金メダルでした。熱海のミニOB会で山内英雄先輩に勧められ、背中を押してもらって良かったなあつくづく思います。山内先輩ありがとうございました。それに、野中OBからの諸注意メッセージがなかったらこんな運のいい試合運びはできなかったでしょう。ありがとうございました。

水谷吉朗 (S48卒)



M70メダリスト集合写真、三宅義信氏と並んで

(写真：日本ウエイトリフティング協会 Facebook公式ページより転載)

年会費納入のお願い

早稲田大学ウエイトリフティング部の運営ならびに選手の育成・強化のため、また勧誘活動・受験指導のため、当会からの経済的支援が不可欠です。年会費の納入がまだお済みでない方はお振り込みをお願いします。

納期：	2022年度分は2022年12月末までに(なるべくお早めに)お振り込み願います。		
振込額：	卒業4年目以降：12,000円 卒業3年目まで：10,000円		
振込先：	金融機関/支店	=	みずほ銀行 新宿新都心支店
	科目/口座番号	=	普通 8220922
	受取人名	=	トウモンウエイトリフティングクラブ

競技会成績

令和4年度 第50回東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会

階級	選手名	学部学年	体重	BEST						TOTAL		
				S	順位	点数	C&J	順位	点数	記録	順位	点数
M61	宮下一心	社学4	60.25	105	3位	6	138	2位	7	243	3位	6
M67	西川和真	スポ3	66.9	116	3位	6	135	4位	5	251	3位	6
M73	佐藤康太郎	スポ4	71.9	133	1位	8	175 CR	1位	8	308 CR	1位	8
M81	駒坂勇氣	スポ3	79.35	129	2位	7	161	3位	6	290	2位	7
M89	須藤之博	スポ1	84.1	126	3位	6	156	5位	4	282	4位	5
M89	小山秀斗	スポ2	85.85	120	6位	3	161	4位	5	281	5位	4
M96	長谷川元基	スポ1	94	135	2位	7	161	4位	5	296	3位	6
M109	菊地力哉	スポ1	102.95	135	1位	8	171	2位	7	306	1位	8
M109	田中稜真	スポ2	102.55	127	5位	4	151	6位	3	278	6位	3
M109+	西堅也	スポ4	132.9	125	3位	6	163	4位	5	288	4位	5
											総合3位	174

令和4年度 第50回東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会

階級	選手名	学部学年	体重	BEST						TOTAL		
				S	順位	点数	C&J	順位	点数	記録	順位	点数
W45	鈴木莉乃	スポ4	44.95	57	1位	5	75	1位	5	132	1位	5
W45	佐藤日路	スポ3	44.85	54	2位	4	71	2位	4	125	2位	4
W55	原沙織	スポ4	54.55	79	2位	4	103	1位	5	182	2位	4
W55	堤菜央	スポ1	54.65	78	3位	3	55	4位	2	133	4位	2
W59	吉田いぶき	スポ4	55.6	73	4位	2	95	3位	3	168	4位	2
W76	田中美奈	スポ3	73.4	86	3位	3	107	3位	3	193 CR	3位	3
W76	伊藤紗彩	スポ3	71.65	83	4位	2	106	4位	2	189	4位	2
W87+	吉田琴乃	スポ3	105.7	80	2位	4	105	2位	4	185	2位	4
											総合3位	81



佐藤康太郎選手 (4年)



原沙織選手 (4年)



柏木良太選手 (4年)

令和4年度 第46回東日本ウエイトリフティング個人選手権大会

階級	選手名	学部学年	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	C&J	順位	記録	順位
M67	坂本拓夢	スポ4	66.75	110	4位	138	3位	248	3位
M81	駒坂勇氣	スポ3	80.4	125	2位	165	1位	290	1位
M109	柏木良太	スポ4	106.3	145 CR	1位	173 CR	1位	318 CR	1位
M109+	木口永遠	スポ3	125.1	116	3位	140	3位	256	3位

令和4年度 第19回東日本新人ウエイトリフティング選手権大会

階級	選手名	学部学年	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	C&J	順位	記録	順位
M73	奥野伊真	スポ1	70.05	100	4位	120	4位	220	4位
M81	吉野真太郎	スポ1	80.55	120	1位	146	1位	266	1位
M89	須藤之博	スポ1	84.8	126	1位	154	1位	280	1位
M96	今瀬竜雅	スポ2	90.85	115	5位	140	6位	255	5位

【学部表記凡例】 スポ：スポーツ科学部 社学：社会科学部

【記録表記凡例】 J：ジュニア U：大学 C：大会 S：タイ記録 R：新記録